

# 株式情報 (2020年9月30日現在)

## 株式の状況

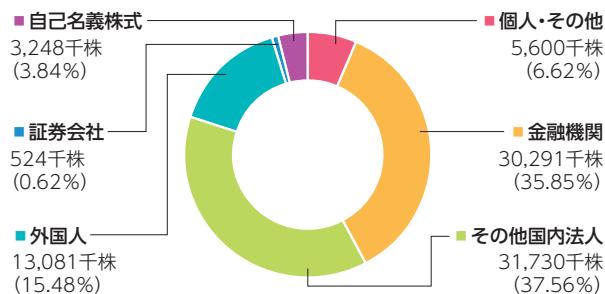
発行可能株式総数	288,000,000 株
発行済株式の総数(うち自己株式 3,248,445株)	84,476,500 株
株主数	9,401 名

## 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本航空株式会社	4,398	5.41
ANAホールディングス株式会社	4,398	5.41
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,960	4.87
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・ 京浜急行電鉄株式会社退職給付信託口)	3,484	4.28
株式会社三菱UFJ銀行	3,408	4.19
株式会社みずほ銀行	3,300	4.06
三菱地所株式会社	3,111	3.83
大成建設株式会社	2,831	3.48
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 日本通運口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	2,337	2.87
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,076	2.55

(注)持株比率は自己株式(3,248,445株)を控除して計算しております。

## 所有者別株式数分布



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの100%植物油のインクおよびFSC®認証紙を使用し、印刷工程で有害廃液を出さない[水なし印刷方式]を採用しています。

# 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 <a href="https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/">https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/</a>
株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-288-324(フリーダイヤル)

## 各種お手続きのお取扱窓口について

住所変更や買取・買増請求等株主さまの各種お手続きのお取扱窓口は以下の通りです。

- (1) 証券会社等に口座をお持ちの場合  
お取引の証券会社等になります。
- (2) 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)

### 電話でのお問い合わせ

**みずほ信託銀行株式会社 証券代行部**  
TEL:0120-288-324(フリーダイヤル)

- ※土・日・祝日を除く9:00~17:00
- 各種お手続きお取扱店
- みずほ証券**  
本店および全国各支店  
プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取り扱いいたします。
- みずほ信託銀行**  
本店および全国各支店  
※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。

**日本空港ビルデング株式会社**  
Japan Airport Terminal Co., Ltd.

〒144-0041 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号(第1旅客ターミナルビル)  
TEL:03-5757-8000(代表)

<https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/>



株主・投資家の皆さまへ

第77期 株主通信  
第2四半期 [2020年4月1日] [2020年9月30日]



証券コード：9706

日本空港ビルデング株式会社  
Japan Airport Terminal Co., Ltd.

# トップメッセージ

コロナ禍の厳しい事業環境のなか、  
資金の手元流動性を確保。  
ニューノーマルに移行するなか、  
柔軟で安定した事業運営ができる体制を  
構築してまいります。

代表取締役会長兼CEO 鷹城 勲

代表取締役社長執行役員兼COO 横田 信秋

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行  
(パンデミック)により、羽田空港全体としては  
非常に厳しい事業環境が続いております。

上期の事業環境につきましては、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行(パンデミック)により、世界景気が大幅に悪化し、特に航空業界や観光業界は、各社とも事業継続が最優先課題となっております。

航空旅客数につきましても、羽田空港国内線では、緊急事態宣言下の5月を底にして旅客は少しずつ回復しておりますが、羽田空港国際線および成田空港等の国際拠点空港では、ほぼ全ての国との間で出入国制限をしているため、国際線旅客数は大幅な減少が続いております。

上期の売上高につきましては、国内線および国際線の旅客数の大幅な減少により旅客取扱施設利用料収入や商品売上などが大きく落ち込み、全てのセグメントで大幅な減収となりました。費用面では、さまざまな費用削減に取り組みましたが、減収の影響と羽田国際化関連施設の減価償却費の増加などもあり大幅な営業赤字となりました。これらにより売上高は222億円、営業損失は322億円、経常損失は305億円、親会社株主に帰属する四半期純損失は228億円となりました。

## ■決算ハイライト(2021年3月期 第2四半期連結業績)

売上高	222億円	営業損失	322億円
経常損失	305億円	親会社株主に帰属する四半期純損失	228億円

費用を抑制し、資金の手元流動性を確保しながら  
安全対策などの必要最小限の投資を実施。  
厳しい通期業績を予想しております。

このような事業環境のなかでの具体的な取り組みとしては、まず事業運営では、旅客動向に応じて、利便性を損なわない範囲での施設の閉鎖や効率的な人員の再配置を執行してターミナル運営を行っております。また、航空会社や入居テナントとの関係性を重視し家賃減免措置を実施しております。

感染症の拡大防止策では、「航空分野における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づいた対応を徹底して、空港利用者に安心してご利用いただける環境を確保しております。さらに、「FAST TRAVEL」などの先端技術を、非接触・非対面サービスの観点で設備の拡充を図ることで感染症の拡大防止に取り組んでまいります。

収益確保の取り組みでは、当社ECサイトでの品揃えの拡充や認知度の向上に努めるなど、旅客数が落ち込むなかでも売上を確保するための取り組みを進めております。

費用削減の取り組みでは、物件費では、不要不急の費用削減に加えて、業務の内製化などによる外部委託費用の削減を進めております。さらに、一般的な業務の見直しによる効率化を図り生産性の向上につなげてまいります。人件費では、従業員の雇用は維持しつつ、役員報酬の一部返上や従業員賞与の削減等を実施しております。

投資計画では施設管理面で定常的に発生する必要最低限の投資額に抑える一方で、「FAST TRAVEL」などの拡充や安全対策の投資は、現在の状況下でも取り組む必要があると判断し投資計画に組み込んでおります。

資金の状況では、減収の影響による資金不足を補うために、50億円の借入を行い、200億円の借入枠を設定いたしました。今後さらに減収影響が長期化した場合に機動的に対応できるように、さまざまな資金調達の方法についても検討を進めてまいります。

下期の事業環境につきましては、国内景気は、持ち直しの動きが続くなかで、国内旅行需要は10月から「Go To トラベル」の対象に東京都の発着も加えられ、需要の押し上げ効果が期待されております。また、諸外国との間の出入国制限の緩和が進み、国際的な人の往来が段階的に再開しつつあります。これらにより通期の業績としましては、売上高は610億円、営業損失は580億円、経常損失は555億円、親会社株主に帰属する当期純損失は350億円を予想しております。

今期は中期経営計画の最終年度にあたりますが、ガイドラインにつきましては新型コロナウイルス感染症の影響に

より事業環境が著しく変化したため、ほとんどの指標で未達となる見込みです。

また、次期中期経営計画につきましては来期の公表を予定しておりましたが、事業環境や当社の業績に大きな影響を与える航空旅客の先行きが不透明なため、確度のある事業計画の策定が可能になった段階で公表いたします。

ニューノーマルに移行するなかで、  
事業環境の変容に対応できる、柔軟で安定した事業運営が  
できる体制を構築することに取り組みます。

社会全体がニューノーマルに移行するなかで、事業環境としては、新型コロナウイルスのパンデミックの長期化が社会全体の変容を促し、航空需要にも大きな影響を及ぼしているため、収束後も変容する前の状態には完全に戻らないだろうとみられております。社会全体の変容としては、当面の間は物理的距離を確保する対策を続ける必要があり、そのため非接触・非対面でのサービスが一般的になり、さまざまなオペレーションが変更されていくとみられております。さらにはデジタル化の流れが、より広汎な分野で進展するものとみられており、なかでもリモートワークの普及とネット通販の隆盛が顕著になっております。航空需要への影響では、国際線の定期便の旅客数は、数年にわたり低迷が続くと予測されておりますが、コロナ禍において感染リスクを抑えた移動手段としてビジネスジェットの需要が増加すると予想されております。また、リモートワークの普及でビジネス旅客の需要は減少する可能性があります。ワーケーションや地方移住が選択肢に入るようになれば新たな航空需要の創出につながる可能性があります。これらの事業環境の変容が、当社事業にも影響をもたらすと考え、それに対応できる柔軟で安定した事業運営が可能となる体制の構築を目指して取り組んでまいります。

そのなかで、旅客ターミナルという極めて公共性の高い施設運営を、時代の要請に応じて、事業として成り立たせていくことが当社の使命であります。まずは、根底に空港利用者に安心してご利用いただけるように感染対策、防災防犯等の幅広い面での安全対策を徹底的に行い、投資を継続していく絶対安全の確立を据えております。そのうえで、ターミナル運営の維持管理費用の最適化を図り、ロボットや「FAST TRAVEL」などの先端技術を活用し、航空会社等と連携し協議しながら柔軟で効率的なターミナルの運営方法について検討してまいります。

この効率的なターミナル運営を可能とするための構造改革として、まず「コスト構造改革」では、人材のマルチタスク化を図り、グループ内で会社の枠を超えて人材を融通できるように

人員の効率的な活用を進め、将来的にはグループ体制の見直しも検討してまいります。さらには、サービス水準を維持しながらコストの最適化を図り、それを維持継続することで将来的なコスト増を抑制いたします。

次に、「収益源の多様化」では、これまで培ってきたノウハウに加え、顧客起点の経営強化に向けてマーケティング活動の強化やEC事業および販売代理店事業などを拡大し、航空旅客のみに依存しない収益源の確保を目指してまいります。

具体的には、EC事業で他企業と連携して新たな越境ECサイトを立ち上げたほか、販売代理店事業では、放射冷却素材「Radi-Cool」の販売権を取得するなど事業規模の拡大に向けた取り組みを進めております。さらには、国際線において東京オリンピック・パラリンピックを契機に、コロナ禍の航空需要として増加が見込まれるビジネスジェット専用施設の整備をするなど、新たな顧客層を取り込むための準備を進めることで安定した事業運営を可能とする強靱な企業体質を構築いたします。

中間配当金は大変遺憾ながら無配とさせていただき、  
期末配当金につきましても未定とさせていただきます。

株主の皆さまへの利益還元につきましては、経営の重要課題の一つとして位置づけており、大規模投資を考慮した内部留保を確保すると同時に、安定的な配当を継続して実施し、業績に応じて、積極的に利益還元することを基本方針としております。新型コロナウイルス感染症により、厳しい状況にありますが、この株主還元に関する基本的な考え方については変更していません。そのなかで今期中間配当金につきましては、現在の事業環境、業績動向ならびに基本方針を踏まえ、総合的に検討を重ねた結果、手元流動性の確保が最重要と考え、大変遺憾ですが無配といたしました。また、期末配当金につきましては、現時点では未定とし、今後の業績回復の状況をみて決定いたします。

今後とも、ターミナル運営会社としての責務を果たしつつ、一刻も早い会社全体の黒字化を目指してまいりますので、株主の皆さまには、引き続き一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ■通期業績予想(2021年3月期 2020年11月5日発表)

売上高	610億円	営業損失	580億円
経常損失	555億円	親会社株主に帰属する当期純損失	350億円

# ニューノーマルでの事業運営 ~安定した事業運営を可能とする強靱な企業体質に向けて~

当社は、空港利用者に安心してご利用いただけるように感染対策、防災防犯等の幅広い面の安全対策を徹底的に行います。また、柔軟で効率的なターミナル運営を可能とするための構造改革として、「コスト構造改革」と「収益源の多様化」を進めてまいります。



## 羽田空港における新型コロナウイルス感染対策の取り組み

新型コロナウイルス感染症の取り組みとして、羽田空港においては、法務省、厚生労働省、国土交通省等の関係官庁および空港内事業者と連携し対応に努めております。

羽田空港では、ホームページ、SNS、ポスター、デジタルサイネージ等を活用してご利用になるお客さまへの注意喚起、ターミナル内における消毒液の設置、ターミナル内アナウンスやポスター掲示等による手洗いやマスク着用をはじめとするせきエチケット等の感染対策の要請を行っております。

交通インフラを支える役割を担う当社グループは、新型コロナウイルス感染症の感染予防に注力し、お客さまに安心して羽田空港をご利用いただけるように努めてまいります。

## 安心・安全にご利用いただくためのポイント

羽田空港を安心・安全にご利用いただくため、お客さまにお願いします。

- 1 ご来館いただく前に自宅が発熱・のど・せき等の体調チェックをお願いいたします。
- 2 ご来館の際はマスクの着用をお願いいたします。
- 3 エスカレーターはなるべく前後を離れてご利用ください。
- 4 エレベーターの中ではなるべく離れてご利用ください。
- 5 ソファやイスは間隔をあけてご利用ください。
- 6 こまめな手指消毒にご協力ください。
- 7 洗面台は間隔をあけてご利用ください。
- 8 セルフチェックイン等、非接触型機器を積極的にご利用ください。

## HANEDAの感染対策

羽田空港ではお客さまが安心してご利用できるように感染症対策を徹底しております。

### 空港内スタッフのマスク着用の徹底

感染拡大防止のため、空港内スタッフへのマスク着用を徹底しており、必要に応じてフェイスシールドを着用しております。



### 空港内スタッフのこまめな手洗いの実施

空港内スタッフは始業時、休憩前後、終業時など、こまめに手洗い・アルコールによる手指消毒の対策を行っております。



### アルコール消毒液の設置

ターミナル出入口やカウンター、保安検査場をはじめとする館内各所に、皆さまにご利用いただけるアルコール消毒液を設置しております。

### 施設内の消毒・清掃強化

館内のドアノブや手すり、手荷物カートや車いす、ベビーカーやターミナル間無料連絡バスの手すり・つり革等、接触頻度の高い箇所の消毒等、清掃を強化しております。

## HANEDAの3密対策

羽田空港ではお客さまが安心してご利用できるように密閉、密集、密接の3密の回避を推奨しております。



### ソーシャルディスタンスの注意喚起

密接になりやすい場所では、ポスターにより距離を保つよう注意喚起や会話の自粛をお願いしています。またターミナル内のテーブルやいすなどの利用方法・配置の見直しなどを行い、間隔をいただくと促しております。

### 密閉回避のため換気の徹底

保安検査場や出入国審査場、到着フロア、その他店舗等でこまめに換気を行っております。



### 従業員との密接防止策

チェックインカウンター、案内カウンターや店舗にアクリル板を設置し、従業員とお客さまの間を遮蔽することで密接を防止しております。

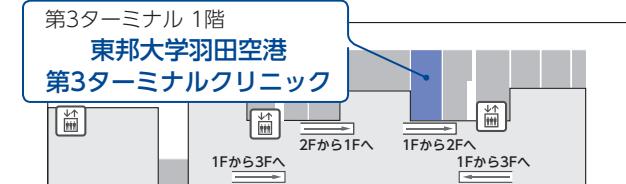
### 非接触型機器の導入

係員と接触することなくチェックインや手荷物預け等の搭乗手続きを行うことができる「非接触型機器」の導入を進めております。

## 海外渡航者向け唾液PCR検査

羽田空港ではお客さまが安心して渡航できるように唾液PCR検査の受検と証明書を取得することができます。

東邦大学羽田空港第3ターミナルクリニックにおいて、新型コロナウイルスPCR検査陰性証明書の提出が求められる海外渡航者に対し、有料で唾液によるPCR検査の実施および証明書の発行を行っております。同PCR検査は、検体採取後「最短2時間」での陰性証明書発行が可能です。これにより羽田空港における海外渡航者向けPCR検査の利便性を高め、空の旅を通じた国際間の往来再開に向けて貢献いたします。



案内・予約 <https://www.haneda.toho-u.ac.jp/international/information/2020PCR.html>

従業員の雇用は維持しつつ、サービス水準を保ちながらコストの最適化を図り、将来的なコスト増を抑制いたします。

## コスト構造改革 コロナ禍での空港のありかたに対応するべく、3種類のロボットを導入

当社は2016年にHaneda Robotics Labを立ち上げ、羽田空港でさまざまなロボットの実証実験を実施し、効果の高い清掃ロボットを中心に実用化してきました。今回、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により世界的にもソーシャルディスタンスの確保など、新たな対応が求められるなか、自動運転車いす (WHILL社)、遠隔案内ロボット (インディ・アソシエイツ社)、清掃・消毒ロボット (CYBERDYNE社)の3種類のロボットを導入しました。

### WHILL 自動運転システム (自動運転車いす)



製造

WHILL株式会社

機能

WHILL社が開発するパーソナルモビリティに自動運転・衝突回避機能を搭載。スタッフの介助を必要とせず、お客さまを搭乗口付近までお連れすることが可能となります。

### MORK (モーグ) 遠隔操作ロボット



製造

株式会社インディ・アソシエイツ

機能

親しみやすいキャラクターのMORKを案内所に設置し遠隔にて監視・操作・案内を行うことで、お客さまとスタッフが直接対面せずとも親切丁寧な案内を行うことが可能となります。

### CL02 清掃・消毒ロボット



製造

CYBERDYNE株式会社

機能

大空間でも精度の高い自立走行を行い、迅速に消毒液の散布が可能となります。

これら3種類のロボットはHaneda Robotics Labによる実証実験を実施し、性能の確認および安全性等の検証を経て、このたび羽田空港旅客ターミナルへの導入に至りました。

当社は、これからもロボット等の最先端技術も活用しながら、羽田空港の安心・安全を維持し、清潔で快適な旅客ターミナルを持続的に提供してまいります。

これまで培ってきたノウハウを活かし、顧客起点の経営強化に向けたマーケティング活動の強化、EC事業や販売代理店事業などを拡大することで収益源の確保を目指します。

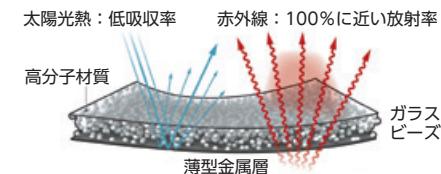
## 収益源の多様化 ラディ クール ジャパンと販売代理店契約 ~冷房効果を高める新素材「Radi-Cool」を販売~

当社は、羽田空港の冷房効率を高めて空港をご利用になるお客さまおよび従業員に快適な環境を提供する取り組みを行うため、放射冷却素材の開発事業を担うラディ クール ジャパン株式会社 (以下、ラディ クール社) と国内初となる販売代理店契約を締結しました。

ラディ クール社が開発・製造する「Radi-Cool」は、ガラスビーズなどを挟んだポリマー構造のフィルムで、直射日光下でもエネルギーを消費することなく物体の表面温度を下げるができる新素材です。

近年の異常気象により、夏季の暑さは人々の活動に大きな影響を与えています。冷房効率を向上させることにより環境負荷を軽減させ、羽田空港を起点とする「地球環境に優しい空港の創出」に向けて、空港を含むインフラへの展開はもちろんのこと、他業種や個人が着用できる衣類の開発なども進める予定です。

### Radi-Coolフィルムの効果と羽田空港における取り組み事例



#### Radi-Coolフィルムの特性

- 高分子材質によって太陽光をクリアに透過
- 黒体に近い赤外線放射率
- 薄型金属層による高い太陽光反射率

#### Radi-Coolフィルムの効果

- 熱放射の波長を8~13μmですること「大気窓」を通して効率的に熱を放射することで、温度の上昇を抑制し、高い冷却効果を実現

### 第2ターミナル 旅客搭乗橋 (57番スポットL2)



#### 温度比較

	気象	34.2c
表面温度	57番スポットL1	36.3c
	Radi-Cool	26.6c
	温度差	9.7c
室内温度	57番スポットL1	39.6c
	Radi-Cool	34.6c
	温度差	5c

### ラディ クール ジャパン 株式会社概要

名称	ラディ クール ジャパン株式会社
事業内容	Radi-Cool 放射冷却製品の開発・製造・販売
資本金	100,000千円
設立年月	2019年2月

**収益源の多様化** コロナ禍により旅客が著しく減少したなか、ECサイトを通じた販売施策に取り組んでおります。

当社は、羽田空港になかなかお越しになれないお客さまや、帰宅後にもう一度羽田空港で取り扱いのある商品を購入したいというお客さまのニーズに応えるため、2017年よりECサイト「HANEDA Shopping」を開設し運用しています。今般のコロナ禍により生活様式が変化し、ECの利用が増加するなか、羽田空港限定商品などの人気商品の拡充や、レコメンド機能\*などを実装することで、お客さまのさらなる利便性の向上に努めてまいります。

<https://haneda-shopping.jp/>

| HANEDA Shopping |



追加したレコメンド機能\*

**注目の商品**

羽田空港オリジナル  
羽田空港オリジナル  
エコバッグセット ...

**機能**  
サイト利用者の閲覧数の多いものから順に表示。

**注目の商品**

PRESS BUTTER SAND  
バターサンド2種セット便(黒)

**機能**  
お客さまの閲覧履歴を表示。

この商品をチェックした人はこんな商品もチェックしています

羽田空港オリジナル  
羽田空港オリジナル  
エコバッグ(青)    羽田空港オリジナル  
エコバッグセット ...    羽田空港オリジナル  
エコバッグ(黒)

**機能**  
関連商品をサイト利用者の閲覧履歴に応じて表示。

**最近チェックした商品**

羽田空港オリジナル  
羽田空港オリジナル  
エコバッグセット ...

**機能**  
お客さまの閲覧履歴を表示。

\*レコメンド機能:お客さまの好みに合った商品をおススメする機能

..... TOPICS ! .....

最新テクノロジーを駆使した次世代の体験型商業施設  
「羽田出島 | DEJIMA by 1→10」がHICity内に開業

当社は、2020年9月19日、HANEDA INNOVATION CITY(以下、HICity(エイチ・アイ・シティ))\*1内に、体験型商業施設「羽田出島 | DEJIMA by 1→10」を開業しました。「羽田出島 | DEJIMA by 1→10」は、「日本の空の玄関口」である羽田を現代の出島になぞらえ、文化、アート、モノづくり等、日本が世界に誇るコンテンツをプレゼンテーションしていく場所です。



ミックスド・リアリティ\*\*2を活用した演出で現実と仮想の狭間を旅しながら、日本文化をさまざまな方法で学べます。また、全国各地で活躍するモノづくりの担い手らと直接つながることのできるファンコミュニティコマース「ENU」\*3を通じて、新たな購買体験をご提供します。

当施設では、各地の自然や原風景、四季折々の楽しみなど、私たちも日本人も忘れてきているこの国の持つ魅力を新しい形で発信することで、思わず旅に出たくなる瞬間をお届けします。

**「羽田出島」の最新情報は**  
Webサイト: <https://hanedadejima.jp>  
Twitter: [羽田出島 | DEJIMA by1→10 公式 \(@DEJIMA\\_onetoten\)](https://twitter.com/DEJIMA_onetoten)

**チケットのご購入について**

チケットぴあにて販売中(Pコード 992-852)

店頭購入	セブン-イレブン、チケットぴあ各店舗にて購入が可能
電話購入	Pコード入力または音声認識予約(0570-02-9999)
インターネットによるご購入	ぴあウェブサイト [ <a href="https://w.pia.jp/t/haneda-zipangu/">https://w.pia.jp/t/haneda-zipangu/</a> ]

\*1 HANEDA INNOVATION CITY(略称:HICity): 羽田空港に隣接する大規模複合施設で「先端」と「文化」の2つをコア産業とし、分野を超えてさまざまなモノ・コトの交流を誘発し、異分野が互いに刺激し合うことで新しい体験や価値の創造を加速する、未来志向のまちづくりを目指します。  
\*2 ミックスド・リアリティ: 複合現実とよばれ仮想世界を現実世界に重ね合わせて体験できる技術。  
\*3 ファンコミュニティコマース「ENU」: 日本全国の匠たちとSNSのように直接つながり、彼らのその想いととも商品を購入することができる今までにないショッピングスタイル。

## 羽田未来総合研究所とNTTアドが実験的店舗『HARAJU Cross JMC\_est』を開業

株式会社羽田未来総合研究所(以下、羽田未来総合研究所)と株式会社エヌ・ティ・ティ・アド(NTTアド)は、ウィズ・コロナ/アフター・コロナを踏まえた地域活性化・インバウンドビジネスに重点をおいた、リアルとバーチャルを連携した新たなマーケティング手法の確立ならびにデジタルマーケティング分野における今後のサービスモデルの創出を目指し、共同実験を開始しました。

### 共同実験の内容

2020年6月16日、原宿にオープンした複合施設「WITH HARAJUKU (ウィズ原宿)」内に、リアル店舗とバーチャル技術を融合させた「HARAJU Cross JMC\_est」を開業しました。店舗内 IoT、タブレット、デジタルサイネージ、スマホアプリ等の各種デジタルソリューションを活用、嗜好・行動・購買動向を分析し、パーソナライズド・マーケティング\*の高度化を目指しています。また、共同実験の検証を羽田空港のサービス・リテール分野のCX(顧客体験)向上にも反映していきます。

共同実験のなかで、羽田未来総合研究所は、日本全国各地に眠っている優れた技術・逸品・食材を発掘し、編集・ブランディング(磨き上げ)、発信していくJAPAN MASTERY COLLECTION\_estを「HARAJU Cross」で展開しています。



\* パーソナライズド・マーケティング:一人ひとりの興味や関心に合った情報やサービスを提供するマーケティング手法

## 事業別概況

全ての事業において、対前年同期比減収減益となりました。

### 施設管理 運營業



72%

- 羽田空港国内線、国際線ターミナルの入居テナントに対する家賃減免措置による家賃収入の減少および旅客数の減少による旅客取扱施設利用料収入の減少
- 営業損益は、昨年度に供用開始した羽田空港第2ターミナル国際線施設と第3ターミナル拡張部の減価償却費の増加等の影響により営業損失

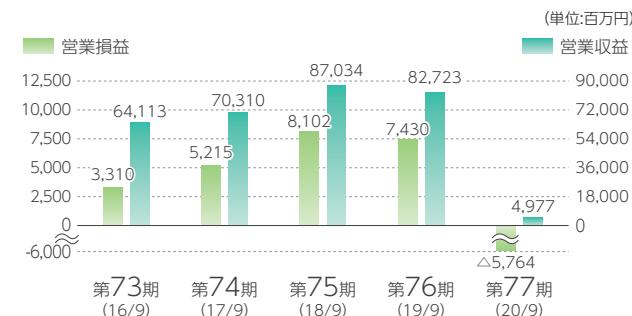


### 物品 販売業



21%

- 羽田空港国内線、国際線旅客数の大幅な減少および羽田空港国際線売店、成田空港免税店ならびに市中免税店の一時休業の影響による商品売上の減少
- 地方空港での旅客数の大幅な減少による卸売上の減少



### 飲食業



7%

- 羽田空港国内線、国際線旅客数の大幅な減少および臨時休業の影響による飲食売上の減少
- 顧客外国航空会社の成田、羽田路線における旅客数の大幅な減少による機内食売上の減少



## 四半期連結 貸借対照表のポイント

### ① 資産合計

営業収益の落ち込みに伴う現金及び預金や売掛金の減少、建物及び構築物等の減価償却が進んだことなどにより減少しました。その結果、前期末に比べて403億1百万円減少の4,810億6千1百万円となりました。

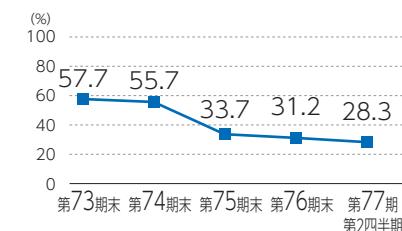
### ② 負債合計

昨年度に完了した羽田空港国際線施設の拡張工事代金の支払いがあった一方で、長期借入により約300億円を調達した影響により、前期末に比べて2千2百万円増加の3,194億8千7百万円となりました。

### ③ 純資産合計

配当金の支払いや、四半期純損失の計上による利益剰余金および非支配株主持分の減少により、前期末と比べて403億2千4百万円減少の1,615億7千4百万円となりました。この結果、自己資本比率は28.3%(前期末31.2%)となりました。

### ■ 自己資本比率



(単位:百万円)

四半期連結貸借対照表	前期 2020年3月31日現在	当第2四半期 2020年9月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	114,248	90,047
固定資産	407,114	391,014
有形固定資産	335,551	319,676
無形固定資産	38,820	37,937
投資その他の資産	32,742	33,400
<b>① 資産合計</b>	<b>521,363</b>	<b>481,061</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	64,327	37,338
固定負債	255,136	282,148
<b>② 負債合計</b>	<b>319,464</b>	<b>319,487</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	159,029	135,337
その他の包括利益累計額	3,575	850
非支配株主持分	39,294	25,386
<b>③ 純資産合計</b>	<b>201,899</b>	<b>161,574</b>
負債純資産合計	521,363	481,061

(単位:百万円)

四半期連結損益計算書	前第2四半期 自 2019年4月 1日 至 2019年9月30日	当第2四半期 自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日
<b>④ 営業収益</b>	<b>135,270</b>	<b>22,293</b>
営業総利益	72,048	17,216
<b>⑤ 販売費及び一般管理費</b>	<b>60,891</b>	<b>49,482</b>
営業利益又は営業損失(△)	11,156	△32,266
営業外収益	1,223	4,745
営業外費用	1,651	2,984
経常利益又は経常損失(△)	10,728	△30,506
特別利益	181	3,902
特別損失	44	4,923
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	10,866	△31,527
法人税等	3,346	2,509
四半期純利益又は四半期純損失(△)	7,519	△34,036
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	1,573	△11,157
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	5,945	△22,879

## 四半期連結 損益計算書のポイント

### ④ 営業収益

新型コロナウイルス感染症の影響による国内線、国際線の旅客数の大幅な減少で、旅客取扱施設利用料収入、商品売上高や飲食売上高などの落ち込みが続いていたことにより、前年同期比83.5%減の222億9千3百万円になりました。

### ⑤ 販売費及び一般管理費

ターミナルの一部閉鎖に伴う水道光熱費など運営管理費の削減、役員報酬の一部返上や従業員賞与の削減ならびに外部委託費用の削減等、徹底的なコスト削減に取り組んでおりますが、昨年度に供用開始した羽田国際化関連施設の減価償却費の増加などにより、前年同期比18.7%減の494億8千2百万円となりました。

## 会社概要

商号	日本空港ビルディング株式会社 Japan Airport Terminal Co., Ltd.
設立	1953年7月20日
資本金	174億8,920万円(東証一部上場)
事業内容	(1) 羽田空港旅客ターミナルビルの建設、管理運営 (2) 物品販売業務 (3) その他のサービス業務

## 本社および営業所など

本社	東京都大田区羽田空港三丁目3番2号 (第1旅客ターミナルビル)
東京事務所	東京都千代田区丸の内二丁目4番1号 (丸の内ビルディング14階)
成田営業所	千葉県成田市古込字込前164番地 (成田国際空港内コスモビル)
大阪営業所	大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地
中部営業所	愛知県常滑市セントレア一丁目1番地 (旅客ターミナルビル3階)

## 役員

代表取締役会長兼CEO	鷹城 勲
代表取締役社長執行役員兼COO	横田 信秋
代表取締役副社長執行役員	鈴木 久泰
取締役副社長執行役員	赤堀 正俊
取締役副社長執行役員	大西 洋
専務取締役執行役員	米本 靖英
専務取締役執行役員	田中 一仁
常務取締役執行役員	石関 佳志
常務取締役執行役員	丹治 康夫
常務取締役執行役員	蜂須賀 一世
常務取締役執行役員	小山 陽子
取締役(非常勤)	原田 一之
取締役(非常勤)	植木 義晴
取締役(非常勤)	木村 恵司
取締役(非常勤)	芝田 浩二

監査役	盛田 靖子
監査役	戸田 尚俊
監査役(非常勤)	竹島 一彦
監査役(非常勤)	岩井 幸司
監査役(非常勤)	柿崎 環
上席専務執行役員	知久 守一
上席専務執行役員	岩松 孝昭
上席専務執行役員	田口 繁敬
上席常務執行役員	徳武 大介
上席常務執行役員	藤野 威
上席常務執行役員	神宮寺 勇
上席常務執行役員	久保 健治
執行役員	高橋 歩
執行役員	松田 圭史
執行役員	中條 謙太
執行役員	森 明裕
執行役員	楠 尚博

# 株主優待のお知らせ

当社では3月31日時点の株主さまに対して、毎年6月下旬の年1回、株主ご優待券を贈呈させていただいております。

## 優待内容



## ご利用になれる店舗／対象となる株主さま

- 株主ご優待券：羽田空港ターミナル内店舗をはじめとする当社指定の店舗にてご利用いただけます。
- 株主ご優待割引券：羽田空港、成田空港、関西空港および中部空港等の当社指定の免税店舗でご利用いただけます。

株主ご優待券	株主ご優待割引券	長期保有優待
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 羽田空港、成田空港、関西空港および中部空港の当社指定の店舗</li> <li>● Japan Duty Free GINZA (三越銀座店8階)</li> <li>● Air Bic Camera</li> </ul> <small>※一部店舗、商品(金券等)によってはご利用いただけません。</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 羽田空港、成田空港、関西空港および中部空港の当社指定の免税店舗</li> <li>● Japan Duty Free GINZA (三越銀座店8階)</li> </ul> <small>※店舗によっては一部ご利用いただけません。</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象：保有継続期間が3年を超える株主さま(毎年3月31日現在の株主名簿に、当社株式1単元(100株)以上の株主として記載または記録され、かつ、同一株主番号で9月30日および3月31日の株主名簿に連続7回以上記載または記録された株主さま)</li> </ul>

※Japan Duty Free GINZAは空港型市中免税店です。羽田空港または成田空港から国外へ出国されるお客さまがご利用いただけます。なお、商品の購入にはパスポートと出国日時がわかるもの(航空券等)が必要となります。  
※ご利用可能店舗は、新規オープン・撤退・業態変更等により変わる場合がございますことをご理解賜りますようお願い申し上げます。

詳しくは、以下のURLをご覧ください。

[https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/stock\\_information/preferential.html](https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/stock_information/preferential.html)